

第17号

2016年1月発行



発行

房 惑 ク ラ ブ
会 長 岡 本 恒 雄

〒270-2212

松戸市五香南1-16-10

房惑クラブ事務局 佐藤和美

TEL.047-387-4025

房惑クラブ会報

BOUWAKU



会長 岡本恒雄

楽しいラグビーを！！

2015年、昨年は房惑としても色々な事がありました。

しかし、何といてもワールドカップのジャパンの活躍でしょう！

小生も30点ぐらいの差で戦えればOKと思っていましたが、いざ、ふたを開ければテレビに見入りました。

やはりラグビーはディフェンスかな？

房惑の課題もディフェンスと考えます。

一人ひとりが考えてディフェンスする、体で覚える、その次がチームで行う！

神惑戦、久々に白の活躍を観戦しました。

白が勝つといいですね！問題点もあります。いつも来ている人が少ないこと。

まだまだ足りないと考えます。紺白のメンバー集めが急務かも？

ラグビーが久々にスポットライトを浴びています。今がチャンス！

神惑戦一度だけハーフをしましたが、久々にやってみてハーフの苦勞が解りました。

この次の目標ができました。他の人に迷惑かもしれませんが？

いつもの事ですが、少々無理はしても無茶はしない。

楽しいラグビーを！



2015年を振り返って

副会長 田島謙次

あっという間に過ぎた2015年を、次の通り振り返りました。

2015年の年頭に、私自身房惑クラブの活動について、3つのテーマを掲げました。

1. 房惑のもと、「1人でも多くグラウンドに集(つど)うように！」
2. 出場したメンバーが、「極力怪我をしないように！」
3. 房惑クラブの活動を支えてくださる方々に、「少しでも喜んでいただける事を、皆でやろう！」

各々について、自分なりに総括してみると、

1. について

- (1) 在籍メンバーには「房惑新揭示場」で、その都度声をかけ参加を促してみました。

そのうちに、メンバー間での呼びかけも頻繁に行われるようになったと感じています。

メンバーにはもっと積極的に出席を促すように声かけを、皆さん引き続きお願いします。

- (2) 課題の「新入部員」の入部ですが、2014年の4人に対し、本年2015年は今日まで5名と、僅かですが増えました。

更なる対策を思案中、11月に下河邊副務より、新入部員勧誘のチラシ/ポスター作成による具体的な勧誘対策の提案があり、現在実施中です。

ややもすれば総論だけに終始する勧誘対策も好企画により成果が上がると期待しますが、つまりは皆さんの絶大なる協力が、絶対必要です。

- (3) 前年2014年と本年2015年の主要ゲームの参加者数を報告します。

課題は一目瞭然です。改善に向けて、次年度総会での活発な議論を期待するとして。

2015年	紫・黄	赤	紺	白	計
各色在籍者数	19	24	22	22	87人
平均参加者数	7.9	16.1	12.1	5.4	42人
平均参加率	41.5	67.1	55.1	24.7	48%
2014年	紫・黄	赤	紺	白	計
各色在籍者数	20	23	24	26	93人
平均参加者数	6.5	13.4	11.8	6.4	38人
平均参加率	32.5	58.3	49.2	24.6	41%

2. について

楽しいラグビーを継続するためには、まず怪我をしないこと。とは言っても、相手があること。

出来る限り怪我をしない様に皆で心がけましょう。

本年2015年の保険手続き申請件数は5件(事故発生日ベース)、怪我をしても保険申請をしないケースもあるので、実態を全て反映しているとは思えないが、一応の目安として考えることが出来ます。

*事故報告ベース

2015年		2014年	
2月	3件	4月	1件
5月	1件	5月	2件
7月	2件	6月	1件
10月	1件	7月	1件
		11月	1件
計	7件	計	6件

3. について

日頃房惑クラブの活動を支えてくれる方々に少しでも「恩返しをしたい」という感謝の気持ちから、本年は隊員クラブ付近の清掃を2回実施しました。

- ・春 3月29日実施 参加者39名 写真1
- ・夏 8月23日実施 参加者26名 写真2

*隊員クラブマスターの笑顔が、我々への感謝の気持ちと受け取りました。

最後に上記に関する私見を参考までに提言しますが、具体的には、新年度の役員にて取り纏めを依頼します。

1. について

ポスター/チラシの効果を判断し、それによる新入部員特に白パンツの積極的な勧誘を実施したい。(予算化が必要。)

2. について

マウスピース・ヘッドキャップ・ショルダーパットの三点セット着用を促進し、出来る限りの「怪我予防」に努めたい。

3. について、

本年実施した隊内食堂付近の清掃は継続し、さらに家族に対する日頃の感謝から「家族サービスディ」を実行したい。

以上 長々と、とり止めも無く述べてきましたが、今年も怪我をしないで、ラグビーを楽しみましょう！

写真1



写真2



神惑戦にふれて (27. 4. 26)



赤パン 平塚 努

楽しい時間を過ごさせて貰った房惑チームに、文章でお伝えすることは、これが最後となるので、暴言に過ぎるのを諒とされたい。

好きな趣味を永続きさせるコツは、常に趣味をかきたてる工夫、材料を見出すことである。

ラグビーに於いては、スキル・フィットネス向上、闘争心・チームワーク醸成となる。

全てを叶えるのが実際のゲームである。

初顔の相手、永年のライバル、不倶戴天の敵、それぞれにモチベーション・パフォーマンスは違うが、ラグビーへの愛着をいや増す。

具体名で言えば、黄・赤パンにとっては、憎っくき東京不惑であろうか。

別に恨みはないが眼の色が変わるとでも言おうか、プレー・勝敗に拘る、鼻息が荒くなる、年を忘れる。ラグビー冥利に尽きる。但し、心臓に悪い、毎試合とはいかない、謂わばパイアグラである。

年寄り健康療法が必要で、チームは友好外交が一番、理想のお相手は神惑チームとなる。

おもねず、競い合い、和み、集う。定期戦が待ち遠しい。準備怠りなく、戦いまでの興奮は格別である。本年春定期戦もナイスゲームであった。

チームとして個人として、やり残した事が次への動機となる。

赤パン「森くん」を見たまえ。

5トライゲットの試合は、燃えつきている。

ノートライの試合後のうるさいこと、次への燃料満タン状態だ。

年寄り、社会にもチームにもお荷物となっており、ラグビーが出来る喜びを謙虚にかみしめたい。

遠征先で、対戦チームと旧交を暖め、健闘を祈し、特に神惑とは、互いに助っ人を出し合う間柄でもあり、横のつながりとしても、心の通う相手として、永いライバルでいられるよう！

川越ファイターズ戦 感想 (27. 5. 31)



黄パン 清水 紘行

5月31日、快晴、気温30度、川越F戦の注力ポイントは下記のとおりです。

- 1 スクラム、モール、ラックの優劣
- 2 FW、BKの展開力
- 3 個々のスピード、突破力
- 4 ディフェンス、特にタックル
- 5 接触プレーでのあたりの優劣

楽紺・白パン

- ・スクラム、モールは互各、特にラックはプレーの流れより、優劣まちまちでしたが、球出しは最眞目にやや房惑有利でした。
- ・展開力についてはFWのフォローは互角、バックスは個人の川越、ラインとしての展開は房惑が上回っていました。
- ・スピード、突破力はファイターズに一人、体格・スピードが共に群を抜いているプレーヤーがいましたが、アヴェレレッジすると房惑の方が勝っていました。
- ・あたりの強さはほぼ互角、タックルもしっかりしており互角、両チームともしっかりあたって、これが締まりのあるゲームを作った要因だと思います。

特筆プレーは、相手大型センターの独走を、ゴール前5メートル後から追いかけて、守り抜いたタックルです。

試合は暑い中、見応えのある内容で、見事勝利を収めました。

俗に言う「ゼニの取れる試合」と言っても過言ではないと思います。

黄・赤パン

常勝の黄・赤パンにしては、めずらしく完敗です。

・モールは15メートルの前進をそのままトライしたプレーがあり、黄・赤パンの強さの片りんが見られました。ラックからの球出しに残念ながら相手優勢で、敗因の一つと思えます。

・FW、BKの展開力は、相手バックスのスピード、つなぎ、フォローに屈した感じです。

・個々のスピード、突破力、あたりの強さは互角、ただ左右の動きの俊敏さが、相手の方に分があったようです。

60歳70歳と年を重ねる毎に、体力、スピードが退化していきますので、今後とも日頃のトレーニングを継続して行きましょう。

・改善を要するプレーは、目くらパス、あたって後のポイントづくり、そして低いタックル、以上です。簡単ですが、川越ファイターズ戦の感想とさせていただきます。



第44回東日本不惑ラグビーフットボール大会参戦記

((27.6.13~14))

紺パン 下河邊 雅行

いよいよ待ちに待った東日本不惑大会がやってきた。今年は12年ぶりに我が故郷“いわき”での開催となる。まさか、49歳になってラグビーで凱旋帰郷するとは・・・

12年前(平成15年)を思い起こせば、この年でラグビーどころか走り回るなど予想などできなかった。当時は仕事がかかり油にのっていた頃であり自分が会社を動かしていると勘違いして働きづめの毎日。健康などかえりみず、毎晩の様に同僚や客と飲みに行く始末。そんな不健康の日々で、間違いなく過労死に向かって一直線であった。そんなこんなで年月が流れ、鳴かず飛ばずの日々に直感だけで生き延びてきた黄金時代に陰りが見え始めた頃、たまたま入社20年目にして初めて知り合った同期(神惑所属)から不惑ラグビーの存在を知り、不安と期待を抱えながら約30年ぶりにラグビースパイクを履くことになったのである。

会場となったのは、JR植田駅に近い鮫川グラウンド。常磐線の車窓にうつるところであり、そこでプレイしたことはないものの、帰郷のたびにグラウンドにそびえたつポールをみては、昔、高校の狭いグラウンドで毎日のように楕円の球を追いかけていた自分を思いださせてくれる記憶の場所である。

河口にある火力発電所が近くに見え、浜風涼しいラグビーには絶好の場所であるが、あの東日本大震災のときには、地元ラグビースクールの倉庫のみならずグラウンドもろとも津波に流れてしまったそうである。いわき不惑クラブや勿来ラグビースクールをはじめとする多くの関係者の地道な努力や、ひとつひとつ手作業で芝植え作業を行った苦労話を、高校の先輩から聞き、故郷のラグビー愛に感激するとともに、今回こうやって鮫川グラウンドでプレイできることに、いろいろな感謝の思いがこみ上げてきた。

さて、初日オープン戦は、17-0で仙台・新潟に完封勝利。左ウイングの私は、相手陣右側22m付近からのオープン攻撃で、バックスが数的優位をつくり左隅に独走トライ。気持ちよく疾走する自分の姿を頭に思い浮かべ、ワンフォーオールの精神を失念し、一本のトライでおなか一杯になった自分であった。浮かれ気分のまま、スパリゾートハワイアンズでの懇親会、高校の先輩後輩、地元のレジェント(元日本代表)やいわき市長とのラグビー談義に花が咲き、さらにいい気になったところで、フラダンスショー観劇。ファイヤーダンサーの腹筋とフラガールの腰のくびれに目を取られてあつという間に終了。

温泉で酔いを醒ましながらか、今、ラグビーができる幸せを感じ、翌日のトライをイメージ(妄想)して床についた。

二日目は交流戦。初戦は青森。房惑は役者がそろい、いつもなら楽勝の布陣であるが、相手もなかなかガッツあり。要所で攻め手を欠き、前半は7-7のイーブン。後半から登場した私は、有頂天モードが災いしタックルの当たり所が悪く軽い脳震盪。一瞬、天地が逆さになる。出鼻をくじかれ、トライチャンスもないまま悶々としていると痛恨のミス。リプレイを急いだ不用意なクイックスローが、ターンオーバーの餌食となり相手にトライを献上、それが決勝点となり7-14で敗北。独りよがりのダメダメプレイで、悪しきワンフォーオールを演じてしまった。

二戦目は、函館、秋田、いわき戦、有頂天から一転、どんよりした気分軽い片頭痛を感じながら後半に出場。前半5-5での折り返しから一進一退の攻防が続く中で、逆サイドの高速ウイングがトライ。引き離しにかかるものの、その後はディフェンス中心。ここで、初戦のミスの挽回チャンス到来。敵陣深く蹴られたボールにいち早く反応。敵のカウンターアタックを深い位置で仕留めて、オールフォーワンの賛辞を得ようと邪念が入ったタックルの瞬間、相手がつんのめり目の前には相手の顔が。幸いにも裂傷は免れたが、頬骨を強打し、はたから見たら殴り合いの喧嘩傷。しばらく職場では、眼鏡とマスクで顔を隠す羽目となった。その後、高速ウイングのハットトリックで、試合は17-5で勝利。不甲斐ない故郷開催での幕切れに、高校時代の不完全燃焼で終わったラグビー人生を思い出し、次回のいわき大会では、孫の前でかっこよくトライをしてリベンジを果たそうと、決意した自分であった。



VS くるみクラブ (27.6.28)

赤パン 三村 尚知

6月28日、日曜日、松戸自衛隊ラグビーグラウンドにおいて、くるみクラブとの春の定期戦が行われました。

天候は梅雨の晴れ間で、ラグビーをやるにはちょっと暑いくらいでした。

くるみクラブは今年50周年を迎え、5月24日には秩父宮ラグビー場において、記念試合が実施されました。

また10月には、くるみクラブが所有している蔵王の合宿所で、創部50周年記念行事が行われるということです。

そして、クラブ創始者である桑原先生は、2月に米寿を迎えられ益々お元気、また、OBの遠藤利明氏が、東京オリンピック担当大臣に就任されるなど、お祝い事が重なりました。

さて、定期戦は紺白の試合が第1試合、この日はくるみクラブが何故かメンバーが集まらず、赤パンが2名入るといった苦しい構成でした。

試合は、開始早々から相手陣内に攻め込み、5分にゴール前モールを押し込みトライ。

8分にはラックより展開し中央にトライ、ゴールも成功し12対0とリード。

ところが、12分にアクシデントが発生、くるみクラブの鴨田氏64歳がタックルを受け、頭を強打し負傷、試合は中断し救急車を要請する事態になってしまいました。

そのまま前半は終了。その後、病院から連絡が入り検査の結果は異常なし、不幸中の幸いでした。

後半はマイボールキックオフのボールを確保し、そのまま攻め込んでトライ、ゴールも成功し17対0。

このまま押し切るかと思われましたが、ここからくるみクラブが意地を見せて攻撃に転じてきました。

4分に房惑陣22メートル付近ラックから、見事なキックパスがウイングに通りトライして17対5。

10分には、くるみクラブらしいパスワークで左ラインに展開され、独走トライを許してしまい17対10。

このままくるみクラブペースになるかと思われましたが、ここから立て直し、13分、15分にトライを奪い29対10で勝利しました。

続いて行われた黄・赤パンのゲームは、房惑クラブが黄パン5人、赤パン10名に対し、くるみクラブは赤パン7人、紺パン8人のメンバー構成で、年齢的な配分から房惑クラブの劣勢が予想されました。しかし予想を覆し、開始早々ペナルティから左へ展開し、森さんがアングルを変えた鋭い突破を見せて中央にトライし7対0。

5分にも中央にトライして、14対0とリードを広げました。

その後、一進一退の攻防が続き、前半終了間際にくるみクラブ陣内からのキックを、紺パン選手にドリブルで攻められ、さすがに追いつく事が出来ずにトライを許し、14対7で前半を終了しました。

後半は立ち上がりから攻め込み、阿部さんが切れのよいステップで密集を抜けると、森さんのまたまたアングルを変えた突進でトライし、21対7。

その後くるみクラブのトライで21対12。

体力的、若さに勝るくるみクラブに逆転されるかもと、不安がよぎりました。

10分、くるみクラブのお株を奪うようなパスワークでトライ、28対12。

14分、くるみクラブにトライを許し、28対19と差を縮められたものの、そのままノーサイドで勝利しました。

全体に繋ぎも良く、ブレイクダウンも勝っており、年齢差を打ち破る素晴らしい勝利でした。

くるみクラブとのゲームは、両者ともクリーンなゲーム運びで楽しいプレーが出来、今後とも長く定期戦が続く事を望んでやみません。



菅平サニアパーク ((27.7.4~5)

赤パン 斉藤 信二郎

今回が17回目となる「菅平不惑交流試合」の大会。

房惑クラブは、第1回からずっと連続して参加している数少ないチームです。

最初にこのサニアパークに来た時は、フカフカの芝の美しさに感動したものです。

そして、今もこの芝の美しさは変わりません。

この大会が菅平ラグビーシーズンの始まりになります。

丁寧に管理してきたグラウンドの幕開けになります。

この「菅平不惑交流試合」をかわきりに、クラブチーム、高校、大学各チームが夏の間、菅平のグラウンドをかけめぐります。

しかし、今回は雨のため人工芝のグラウンドになるかもしれないとの事、少々がっかりしていましたが、結局赤パンのゲームは天然芝のグラウンドで出来るようになりました。

紺白のゲームは半分しか見ることが出来ませんでした、一番印象に残ったプレーは、赤パンの土曜日の対郡山戦でした。

それは相手ゴール前5メートルからのペナルティでした。

ハーフの阿部ちゃんがボールを持ち、相手フォワードが横に並んで構えます。

相手はチョン蹴りから突っ込んで来る、と思ってゴールライン上に並んで待ち受けます。

ところが阿部ちゃんは、なんと4～5メートルぐらいのチビパントを上げたのです。

そして、それを突っ込んだフォワードが取って押さえ、そのままトライ。

ハイパンなら相手も対応したはずですが、あんなチョコパントはビックリ！

やられた相手はガックリです。

二度は使えないサインプレーですが、あれが一番印象的なプレーでした。

今回、房惑は負けなしという事でした。

相手チームから見て、房惑クラブ全員が一丸となってプレーしているという感じが強いと思います。ディフェンスもオフenseも特に大型選手もいなく、全員がキャプテンのもと、まとまって一つになって戦っている印象を受けます。

普段の定期戦では戦えない遠くのチームと、また来年は最高の芝のグラウンドで、楽しめるように頑張りましょう。

最後に私も「まだもう少し走れるかな？」と感じた菅平でした。

みなさん、ありがとうございました。

房惑杯へどうぞ (27.7.26)

黄パン 中村 守



房惑クラブ部員の皆さん、房惑杯争奪戦を御存知ですか？

今回も7月26日快晴のもと「第3回の房惑杯争奪戦」が松戸自衛隊グラウンドで行われました。

現在は部員が増え、顔が分からなくなっているとか、都合がつかなくて欠席が多い部員にも、対外試合とは違って試合を楽しもうと平成25年に企画されたものです。

準会員も含め房惑ジャージーで楽しく汗をかいて、優勝を目指そうというのがこの大会の趣旨と理解しています。

当日は参加者を年齢順に3組に割り振り、白紺赤黄の混成チームができました。

残念ながら1チーム15人には少し足りないという人数でしたが、それぞれのチームでのポジション構成になりました。

トライは黄・赤だけに認められ、さらに紺・白には10メートル以上走らない特別のローカルルールです。笑いのなかに真剣さもあり、ゲームを楽しむことができました。

結果は、みごと2組が全勝でカップを手に入れました。

試合後主務から色パンごとに敢闘賞が選ばれ、記念品を受け、全員から祝福されました。

真夏のキラキラ太陽の下での試合でしたが、水分補給を心がけたこともあり、ケガ人病人もでず楽しむことができました。

最後にグラウンドで部歌を歌って風呂へ、あとはお待ちかねアフターファンクションです。

今回の会場は元山駅近くの台湾料理屋でした。

ワイワイガヤガヤの酒席ですが、房惑メンバーはどこで飲んでもいつも通り変わりなく、さすが房惑と思わせるものです。

副会長の田島さんから提供された記念品をもらい解散になりました。

房惑杯争奪戦という仰々しい名称ですが、要はクラブ内の親睦ゲームです。

みなさん、次回松戸でダ円の球を追いかけてみましょう。



海洋大OBクラブ戦に参加して (27.11.15)

赤パン 井上 敏憲

数日降り続いた雨が残り、当日の朝も回復に向かう予報とはいえ、何だか寒そうな小雨の天気で、「気合いが入らないなあ〜？」と目を覚まして、房惑の掲示板をチェックした。

和美さんから、昨夜「海洋大さんはやる気満々。大雨強行。」、そして朝方「松戸は雨が止んだ、やるぞ、やるぞ、やるぞ〜！」とダメ押しが入っていた。

・・・「気合いを入れて、行くか〜？」

海洋大さんの紺・白は他のゲームと重なり、黄・赤戦のみとなった。

元山駅に11時半ごろに着くと、すでに海洋大さんは駅前に十数人、「やる気満々」を感じた。

着替えてグラウンドに12時ごろ、海洋大さんは20人くらい、房惑はまだその半分くらい。

揃ってみると黄パンが・・・房惑10人、海洋大5人・・・すごい！！

房惑からの提案で、黄パンが主体で15分×1本、赤パンが主体で15分×2本の「3本勝負」になった。

雨が上がって陽が出て、濡れていた芝生も次第に乾き、グラウンドコンディションも良好、暑いくらいに陽が射してきた。

黄主体の一本目は、暑い日差しを受けて応援したが、二本目あたりから柔らかい秋の日差しに変わり、「チョー気持ち良い〜」コンディションとなった。

さて、いよいよゲーム開始。

私は、ゲーム開始とともにハイテンションで臨むのはどうも苦手で、少しずつ体がぶつかり合っていく内に段々と気合いが・・・？ あれっ、今日の房惑の皆さんも・・・？

結果、1ゴール差の接戦で海洋大さんの勝利。ナイスゲームでした。

懇親会は皆さん、充実した飲みっぷりとコメントで楽しい時を過ごし、最後は海洋大踊り（マイルド・ハカ？）でエール交換。

二次会は、駅前のスナック。

夫人同伴カラオケも盛り上がり、ちょっと飲みすぎて帰宅の途へ。

皆さん、今日一日ありがとうございました。



ラグビーへの思い

主 務 佐藤 和美

昭和47年4月、秋田県の田舎には、まだ雪が残っていた。

横手駅から集団就職列車（津軽2号と記憶）に乗せられ、上野駅を經由し昼前に横須賀に到着、そのまま15歳で自衛隊に入隊した。

陸上自衛隊少年工科大学（現 高等工科大学）でのクラブ活動は、ラグビーと決めていたが、グラウンドでの練習を見学する間もなく「無理だ！」と感じ、中学時代と同じ柔道部へ走った。

あの時、勇気を出して「ラグビー部」に入部していたら、人生が大きく変わっていたに違いない。

暫くラグビーを忘れていたが、専門職種学校の「高射学校（千葉県四街道市）」で再びラグビーと出会い、卒業前の約3ヶ月間、基本習得のスパルタ練習の末に、下志津自衛隊チームは全自衛隊ラグビー中央大会に出場し、Bブロックで準優勝することが出来た。

大会期間中をはじめ高射学校時代のポジションはプロップ1番、柔道で鍛えた腰の強さを請われてだったが、なぜか押し負けた記憶はなく楽しいラグビーを思い出す。

あれから40年、ラグビーを通じて沢山のひとと出会い、人生の生き方や考え方を教わり、やっとのことで「赤パン」になった。

今、ラグビー人気がヒートし、注目を浴びつつあるのは嬉しく、「赤パン」の私にも何かお手伝い出来る事はないだろうか・・・ 深く考えた末に解答が出た。

「元気で長生き、ずっとラグビーをすること。」だった。